

## 長野県植物誌改訂 研究史資料 1：石澤 進

中村 千賀\*

長野県植物誌（1997）には丸山利雄氏がまとめられた「人物を中心とした研究史」が掲載されている。江戸時代から植物誌発刊時まで、7つの時代区分にわけ県内で活躍した（されている）植物研究者の抄伝や業績を詳細に紹介している。10年後の発刊が予定されている長野県植物誌改訂版においても、この研究史を引き継いでいくこととなった。今後、長野県植物研究会誌上において順次連載をし、改訂版の資料としたい。第一回目は県北栄村のご出身で、ユキツバキの研究で著名な、石澤進先生をご紹介します。

## 石澤 進 略歴：

1935 年（昭和 10 年）長野県下水内郡栄村生まれ。1959 年新潟大学農学部農学科を卒業し、研究補助員、教務員を経て助手に。配置換えにより 1970 年新潟大学理学部生物学科助手。1974 年に東北大学にて理学博士学位取得。

博士学位論文タイトル：「ユキツバキの生態的研究」1976 年新潟大学理学部生物学科助教授、1996 年同理学部自然環境科学科教授。専攻は積雪地域の植物地理学、ユキツバキの生態全般。2000 年に退官。積雪地域植物研究所所長などを務め、2018 年 1 月死去（83 歳）

ユキツバキ研究の大家である石澤先生は、県内で最も雪深い地域、栄村のご出身である。新潟大学に進まれてから、生涯新潟県内に拠点を置かれていたが、積雪地域の植物相を研究されたのは出身地に由来するのだろう。ユキツバキについては、分布のみならず、展葉フェノロジーや種子生産、発芽、成長など多岐にわたるが、生物学分野を超えて、方言や暮らしへの利用などにも注目されていた。雪椿研究会や阿賀町雪椿活用推進協議会の会長を務められていた。

新潟県内を中心に、植物の分布に関する研究を精力的に行っておられた。1965 年に発足した植物同好じねんじょ会を率いて調査をされ、その成果を「新

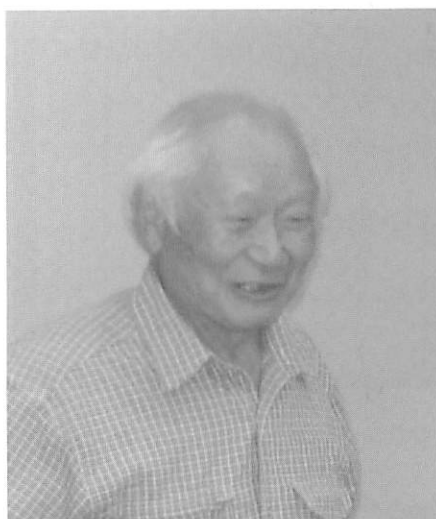


写真 1. 石澤進先生。2012 年 6 月開催の長野県植物研究会大会の懇親会にて。

潟県植物分布図集」として 1980 年から 20 年にわたって毎年刊行し、新潟県内の植物の分布を網羅された。また新潟県内の様々な地域の植物の分布目録の編集をされており、精緻な記録を残されている。これらの調査は、多雪地域の植物の分布を類型化し、気温や降水量などの環境要因との相関を明らかにする研究へと発展した。これにより植物地理・分類学会の 1995 年度学会賞を受賞されている。一方、自然保護への関心も早くから高く、1987 年には新潟県植物保護協会を立ち上げ、雑誌の編集を 20 年以上行っていた。これらの研究のベースとなったのは、地道な野外調査と標本採集である。46 万点を超える膨大な量の標本は、現在新潟市の新津植物資料室に保管されており、県内外の研究に役立てられている。

長野県内での活躍は郷里栄村が中心である。秋山郷の植物相について「苗場山・鳥甲山（長野：秋山郷）の維管束植物」（1985）としてまとめられている。この中で栄村を「日本海気候と太平洋気候の接点に当たる」として、新潟県での植物の分布型との対応により 8 タイプにわけて紹介している。退官後の 2001 年から 2008 年にかけては、栄村教育委員会の依頼で植物調査を行っており、その際自ら撮影した写真の中から 100 点を厳選し、「栄村の自然植物と風景」（2009）として発刊された。またその調査の際、長野県絶滅種のアイナエ（マチン科）

\* 中村 千賀 〒 381-4104 長野市戸隠栃原 3400  
長野市立博物館分館 戸隠地質化石博物館



写真2.「栄村自然植物園報2015」表紙。石澤先生は「自然植物園を創る会」の代表をされていた。

を発見されている。2007年からは「栄村自然植物園」を整備する指導を行い、2014年と2016年に「栄村自然植物園報」を発行された。その中では園内の植物の紹介にとどまらず、開花フェノロジー、園内外での分布、自生地の様子、種子の発芽や定着の経過など、自ら観察した内容を詳細にまとめられている。編集後記には「この植物園の整備にあたっては、栄村に分布する植物を可能な限り一か所に集めて育て、村の子供たちの教育に役立て、また、村民や村外の方々に栄村の自然の豊かさを紹介する場にしたい」と記している。植物学者として郷里の自然を余すことなく将来へ伝えたいという強い意思をお持ちだったのだろう。長野県植物研究会誌の50周年特別寄稿では、タイミンガサの県内新産地報告とともに、この自然植物園についても触れられている。2017年からは栄村の村史編纂委員もされていた。また、長年にわたって長野県希少野生動植物保護監視員をされており、一貫して現場を大切にされるかただった。

1998年～2005年植物地理・分類学会評議員、2003～2007年新潟県環境審議会委員、2007～2010年佐渡市環境審議会委員などを務められた。

#### 業績リスト

以下に石澤進先生の主な業績をまとめた。石澤先生の単著はお名前を省略した。またここに挙げた文献の多くで原著に当たっていないため、誤りが含まれている可能性が高いことをご了承願いたい。

#### 1. ツバキ類（主にユキツバキ）に関するもの

著書・編書・監修

- 1968 著 “5. On some physiological aspects of the bush and snow camellia” Camellias of Japan: 27-32. Takeda Science Foundation. Hagiya, K. & Ishizawa, S. 「5. ヤブツバキとユキツバキの生理」日本の椿（和文の部）：12-14. 武田科学振興財団、萩屋薫・石沢進著
- 1978 著「きりん山のユキツバキ群落」特定植物群落調査報告書 第2回自然環境保全基礎調査（新潟県）：66-67. 環境庁.
- 1978 著「ユキツバキの分布と気候」吉岡邦二博士追悼植物生態論集：296-308. 東北植物生態談話会.
- 1983 著「菅名岳のユキツバキ群落」新潟のすぐれた自然（植物編）：449-451. 新潟県.
- 1988 監「ユキツバキの生活史」Newton special issue 植物の世界 第1号. 河野昭一監修：28-59. 教育社.
- 1995 著「ツバキ科」週刊朝日百科 世界の植物(7)77. 日本の椿：134, サザンカ：138. 朝日新聞.
- 1996 著「ユキツバキを指標とした植物分布 - 新潟県における日本海要素の分布類型 -」学会出版センター.
- 2001 著「ユキツバキの生活史」植物の世界 樹木編, 河野昭一監修：46-77. ニュートンプレス.
- 2003 監「写真で見るユキツバキの一生」長野県下水内郡栄村教育委員会.
- 2004 著「ユキツバキ」植物生活史図鑑Ⅱ 春の植物 No.2. 河野昭一監修：33-40. 北海道大学図書刊行会.
- 2010 編著「新潟県の木 雪椿」新潟県阿賀町雪椿活用推進協議会.

#### 論文等

- 1961 ユキツバキに関する研究（第1報）. 園芸學會雑誌 30(3)：270-290. 萩屋薫・石沢進
- 1961 ユキツバキのはなし. 遺伝 15(12)：20-23. 萩屋・石沢
- 1961 Studies on Snow-Camellia (Camellia rusticana) I. On variation and distribution of native and domesticated camellia in Niigata Prefecture, Journal of Japanese Society for Horticultural Science, Volume 30: 270-290. Hagiya, K. & Ishizawa, S.
- 1963 山形県のツバキの分布. つち団子（米沢生物

- 愛好会) 第4号:17-20.
- 1963 特異な花ユキツバキ. 園芸新知識 18(1): 14-16, 18(2):17-19. 萩屋・石沢
- 1964 山形県におけるユキツバキとヤブツバキの中間種の変異について. つち団子 5:1-4. 石沢・萩屋
- 1965 桃山のタイワンツバキ. 京都園芸 52: 63-67.
- 1966 伏見桃山の切枝促成用ツバキ品種群の特性とその来歴 特に早咲品種群の成立におよぼしたユキツバキの役割について. 同 53:12-29. 石沢・萩屋
- 1966 ユキツバキ-その代表品種. ガーデンライフ 17(春): 36-38.
- 1966 椿の落葉. つち団子 7:46-48. 石沢・萩屋
- 1966 ツバキ (二) ツバキの果皮の厚さ. じねんじょ (植物同好じねんじょ会) 2:5-7.
- 1967 飯豊山夷川口におけるユキツバキの分布. 同 3:23.
- 1967 サザンカの変異および野生種と園芸種の関係について. 京都園芸 55:3-12. 石沢・萩屋
- 1967 ユキツバキの新品種解説 (1) 同 55: 13-20. 萩屋・石沢
- 1968 ユキツバキの新品種解説 (2) 同 58: 5-14. 萩屋・石沢
- 1973 "The ecology of *Camellia rusticana* Honda 1. On the habitat segregation between *Camellia rusticana* Honda (*Snow Camellia*) and *Viburnum urceolatum* Sieb. et Zucc. var. *procumbens* Nakai." *Sci.Repor.of Niigata University (Series D Biology)* 10:53-70.
- 1974 "The ecology of *Camellia rusticana* Honda 2. On the leafing of *Camellia rusticana* Honda (*Snow Camellia*)." *Sci.Repor.of Niigata University (Series D Biology)* 11.
- 1978 佐渡・飛島のツバキ. 新花卉 99: 82-88.
- 1986 ユキツバキの分布限界地における椿の地名と言い伝え. 高志路 (新潟県民俗学会) 281:25-28.
- 1989 静かなる戦略家たち 植物の生活史 10 ユキツバキ. アニマ 196:91-95.
- 1991-2009 雪国の植物 ユキツバキ 1 ~ 38. 新潟県植物保護 第9 ~ 46号.
- 1995 日本におけるヤブツバキの分布 特に中北部における分布. 植物の自然誌プランタ 37:8-16.
- 2005 春に花咲く樹々たち 2 ユキツバキの樹形・外部形態および結実. 同 99:22-32.
- 2005 新潟県におけるカエデ属の絶滅危惧種とユキツバキとの共存関係 (第2部 尾崎富衛先生関連資料 尾崎富衛先生追悼号). じねんじょ 25: 142-147
2. 植物の分布、地域植物相に関するもの
- 著書・編書・監修
- 1972 著「胎内の植物 (主として新潟県北蒲原郡黒川村地内における)」。飯豊山塊, 胎内溪谷の生物 分冊. 野田光蔵・石沢進著
- 1978 著「ユキツバキの分布圏に接在する植物群について」昭和 52・53 年度科学研究費補助金 (総合研究 A) 研究報告書: 9-13.
- 1978 著「小山田のヒガンザクラ」特定植物群落調査報告書 第2回自然環境保全基礎調査 (新潟県): 66-67. 環境庁.
- 1978 著「新潟県青海町 黒姫山の植物」新潟県西頸城郡青海町教育委員会.
- 1980-2000 編「新潟県植物分布図集 第1 ~ 20 集」池上義信監修. 植物同好じねんじょ会.
- 1980-1989, 1994 著「新潟県における植物分布の類型 (I) ~ (11)」新潟県植物分布図集第1 ~ 10, 15 集.
- 1981-1995 著「離島の植物 1(1) ~ 15(17)」同第2 ~ 16 集.
- 1983 著「飯豊連峰」新潟のすぐれた自然 (植物編): 79-90. 新潟県.
- 1984 編「阿賀野川溪谷 (福島・新潟) の植物」富永弘・木本稚行著. 著「[附] 阿賀野川溪谷における分布上特色のある植物」. 新潟県植物分布調査記録 1: 86-92. 新潟大学理学部生物学科植物分類形態学研究室.
- 1985 編著「苗場山・烏甲山 (長野: 秋山郷) の維管束植物」長野県栄村自然調査記録 I (栄村の植物分布 1): 1-96. 栄村教育委員会. 石澤進・白崎仁著
- 1986 編著「ドンチ池の植物 (新潟市中権寺)」新潟県植物分布調査記録 2: 93-103. 新潟大学理学部生物学科植物分類形態学研究室. 小林浩二・石沢進著
- 1986-1987 著「顕著な植物の分布とその群落 1 ~ 3」新潟県植物分布図集第7・8 集. 植物同好じねんじょ会.
- 1987 著「北蒲原: 胎内溪谷の高地植物」同第8 集:29-30.

- 1987 著「ブナ林の植物相」ブナ自然林保全対策緊急調査報告書：28-30. 新潟県.
- 1989 編「飯豊連峰二王子岳の動物（両生・爬虫類）と植物」植物同好じねんじょ会. 岩沢久彰・石沢進編.
- 1989 編「新潟県福島潟の植物」新潟県豊栄市福島潟環境保全対策推進協議会. 笹川通博・石沢進著
- 1991 編著「新潟県菅名岳の植物と動物（両生・爬虫・陸産貝類）」植物同好じねんじょ会.
- 1992 編「新潟県北部及びその周辺地域における植物分布図集 シダ編（1）」登坂裕一著. 著「付録 ユキツバキの分布」新潟県植物分布調査記録3：249-255. 新潟大学理学部生物学科植物分類形態学研究室.
- 1992 編「新潟県中条町地本ミズバショウ生育状況と植物相」中条町教育委員会.
- 1993 編「新潟：三島郡出雲崎町小木ノ城山の樹叢」出雲崎町教育委員会.
- 1994 編「新潟県岩船郡山北町勝木宮堅八幡宮社叢の植物」山北町教育委員会.
- 1994 著「津南町の自然 植物編」津南町の自然植物編編集委員会編. 新潟県中魚沼郡津南町教育委員会.
- 1994-1997 編著「新潟：弥彦連山の植物（弥彦連山植物資料集）第1～4集」新潟県西蒲原郡弥彦村教育委員会・新潟大学理学部弥彦植物調査施設.
- 1996 著「神谷地域の植物と生活」新潟県上川村神谷地域学術総合調査報告書 かみたに自然編：177-248, 519-658. 石沢・笹川著
- 1998 監「越後一新津丘陵に生きる一里山の植物」新潟県都市緑化センター.
- 2001 編「新潟県佐渡における植物分布図集 温暖帯性常緑植物」新潟県植物分布調査記録4. 新津植物資料室（積雪地域植物研究所）. 笹川著
- 2002 編「佐渡島の植物（羊歯・種子植物）」同5. 本間建一郎著
- 2003 編「佐渡植物方言語源私考」同6. 本間著, 「佐渡島の植物目録追加1（羊歯・種子植物）」渡辺洋子著
- 2003 編「新潟県佐渡における植物分布図集 日本海要素の植物」同7. 笹川著
- 2003 監「花かおる苗場山（ビジター・ガイドブック16）」ほおずき書籍.
- 2004 編「新潟県佐渡における植物分布図集 高山・深山の植物」新潟県植物分布調査記録8. 笹川著
- 2004 著「阿賀北・岩船ふるさと大百科 決定版」植物60-63. 郷土出版社.
- 2004 著「弥彦山の植物相からみた近隣の自然環境」ブックレット新潟大学29 弥彦・角田山から地球環境を考える：62-70. 新潟日報事業社.
- 2005 編「新潟県佐渡における植物分布図集 分布上特徴のある植物」新潟県植物分布調査記録9. 笹川著
- 2008 著「植物の分布とその特殊性」佐渡島環境大全：佐渡市環境教育副読本指導書：28-47. 「日本海側に偏って分布する植物」33-34. 新潟大学佐渡市環境教育ワーキンググループ編
- 2009 編「栄村の自然 植物と風景」長野県下水内郡栄村教育委員会.
- 論文等
- 1968 飯豊山植物調査(2) 蒜場山の植物. じねんじょ4:1-44.
- 1968 飯豊連峰の植物 1 大日岳実川路の着生植物. 新潟農林研究 20:161-169.
- 1969 飯豊連峰の植物 2 蒜場山の裏日本要素について. 同 21:203-211.
- 1970 飯豊連峰の植物 3 ヤマグルマの北限地域における分布と生態について. 同 22:153-166.
- 1982 新潟県のハシドイ. NKH（長岡市立科学博物館報）41:6.
- 1985 植物の分布と積雪 - 新潟県およびその周辺地域について - . 芝草研究 14(1):10-23.
- 1985 新潟県およびその周辺地域におけるユキツバキの分布圏をとりまく植物群 - 1. ラショウモンカズラ分布型 - . 長岡市立科学博物館研究報告 20:1-28.
- 1986 新潟県およびその周辺地域におけるユキツバキの分布圏をとりまく植物群 - 2. レンプクソウ分布型 - . 同 21:1-18.
- 1987 新潟県およびその周辺地域におけるユキツバキの分布圏をとりまく植物群 - 3. オニシモツケ分布型 - . 同 22:1-20.
- 1987 顕著な植物の分布とその群落 2 新潟県五泉市菅名岳. 新潟県植物保護 1:5-6
- 1989 新潟の植物 - 分布限界の植物 - . 植物の自然誌プランタ 2:56-61.
- 1990 現存するブナ - ユキツバキ群落の分布. 新潟県植物保護 7:6-8.

- 1995 多雪地域における植物の生態的分布解明の試み—ユキツバキの分布圏をとりまく植物の分布類型— (学会賞受賞記念講演要旨). 植物地理分類研究 43:1-7. 石沢進・池上義信
- 1997 角田山山頂の植物：過去の記録に見る. 新潟県植物保護 21:10
- 1998 ユキツバキとその分布を指標にした新潟県の植物：主に園芸利用に関連した植物について. 園芸学会雑誌 別冊 園芸学会大会研究発表 67(2) : 72-73.
- 1999 セイタカアワダチソウの新潟県における分布・繁茂：秋景色—変波打つ黄色 セイタカアワダチソウ・新潟日報 (1999・10・21). 新潟県植物保護 26 : 10-11
- 2001 新潟県及び本州中部地域に生育するアキノタムラソウ亜属の分類と分布. 長岡市立科学博物館研究報告 36 : 7-34. 櫻井幸枝・石沢進
- 2002-2011 分布上顕著な新津の植物 (1) ~ (10). 新津植物資料室年報 (積雪地域植物研究所) 2001 ~ 2010.
- 2002-2011 新潟県植物分布資料 (1) ~ (10). 同 2001 ~ 2010. 石沢進・朱 雁
- 2002 新潟県頸城湖沼群の水生・湿生植物相. 水草研究会会報 74:1-22. 志賀隆・石沢進
- 2002 各都道府県別の植物自然史研究の現状—新潟県—. 植物地理・分類研究 50 (2) : 179-181.
- 2003 新潟県におけるフサザクラの分布. 新潟生物教育研究会誌 38:77-80.
- 2003 風穴地の維管束植物 (1). 植物地理・分類研究 51(1):13-26. 五百川裕・石沢進
- 2003 シリーズ森林生態系保護地域 21 佐武流山周辺. 森林科学 34:49-54.
- 2005 オキナグサの新潟県における分布と自生地の保護. 新潟県植物保護 37 : 7-10.
- 2005 河川沿いの植物. 同 37 : 12-13.
- 2006 新潟県南部で分布限界の植物および南部に偏在する植物. じねんじょ 26 : 70-86. 石沢進・佐藤政二・中沢英正
- 2006 新潟県の帰化植物侵入・繁茂時期 (その 1) アレチウリ. 新潟県植物保護 39 : 7-8
- 2007 佐渡島の野生植物の重要性和保護. 同 41 : 3-4
- 2007 気候変動と主に新潟県の植物. 同 41 : 5-8
- 2007 新津丘陵における暖温帯植物の分布. 新津植物資料室年報 2006:20-25. 朱 雁・石沢進
- 2008 新津丘陵における暖温帯植物の分布 (2). 同 2007:37-40. 朱・石沢
- 2009-2011 新潟県における暖温帯植物の短報 (5) ~ (7). 同 2008 ~ 2010. 朱・石沢
- 2009 長野県絶滅種アイナエの南木曾町及び栄村での自生確認. 長野県環境保全研究所研究報告 5:81-82. 大塚孝一・尾関雅章・石沢進
- 2010 アズマツメクサ (ベンケイソウ科) を新潟県から記録する. 水草研究会誌 94: 41-43. 藤井伸二・五百川裕・石沢進
- 2017 長野県産植物の栄村における新産地 (50 周年特別寄稿). 長野県植物研究会誌 50: 3-6.

### 3. その他

- 1991 著「ブナ林 春の植物」ブナ林へのいざない 新潟県ブナ林百選 : 17-18. 新潟県ブナ林研究会編. 新潟日報事業社.
- 2006 天然記念物「鳥屋野逆ダケ」の藪の現状と保全. Bamboo journal 23:42-51. 蒔田明史・石沢進
- 2008 マツなど正月行事に利用する植物. 越佐研究 65 : 98-105.
- 2014 編「栄村自然植物園報 2013」栄村教育委員会.
- 2016 編「栄村自然植物園報 2015」栄村教育委員会.